

## 1. 評価告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075400293
法人名	有限会社 エバグリーン
事業所名	グループホーム くるみ
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町中山3599番地
	(電話) 0949-43-1230

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年7月7日	評価確定日	平成19年8月7日

## 【情報提供項目より】(19年6月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日						
ユニット数	2	利用定員数計	18 人				
職員数	16 人	常勤	14 人	非常勤	2 人	常勤換算	15 人

## (2) 建物概要

建物構造	軽骨鉄筋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4) 利用者の概要(6月30日現在)

登録人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6	要介護2	2		
要介護3	6	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83.4 歳	最低	63 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木原医院 鞍手町立病院 健愛記念病院 りんご歯科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームくるみはのどかな田園の中に建てられた2ユニット平屋のグループホームである。開設4年目を迎えているが、隣接する医院の院長でもある管理者は、毎朝訪問し主治医として入居者の心身の健康を管理している。主治医の顔をみるだけで状態が落ち着く入居者も多く、ホームの理念である「ぬくもりあるふれあい」を主治医自らが実践している。入居者の身体機能低下の防止や維持のために、共有空間に職員手作りのリハビリ機器を設置したり、畳の間に昭和30年代を回想させる家具やグッズを整備している。そして入居者の個である「わがまま」に因應するために、各入居者の回想録作成から入居者生活暦・職歴が明瞭になった思い出の地の訪問を支援している。又、回想録の作成は入居者の役割、楽しみごと、気晴らしの支援に繋がるばかりでなく、入居者と職員が共にすごし支え合う関係作りにも役立っている。入居者はホームの庭のテーブルを囲んでお茶を飲んだり、近隣の小学校校庭や入居者の自宅の庭、地域の方の庭で花見をしたりとゆったりした生活を送っている。ホームの機能を地域に還元したいと、ボランティアや研修を受け入れているが、発足した運営推進会議のメンバーの地域の代表者からホーム運営や自治会加入についてアドバイスを受け、例年開催している夕涼み会を本年度は近隣の方々にご案内する等、地域との交流をさらに発展させている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の結果を踏まえ、重要事項説明書に国保連等公的機関の苦情相談窓口を明記したり、家族の意向に沿った介護計画作成や介護計画の見直し時に家族の要望等の把握に取り組んでいる。又、運営推進会議規程を整備し、グループホームの啓発に努めたり、事故及びヒヤリ・ハット報告書を整備するとともに、対策委員会を発足し再発防止や予防に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を踏まえ、今回の自己評価を全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に関する規程を定め、町担当者、地域代表、家族代表、職員等の適切なメンバーで構成され、2ヶ月毎に開催されている。前回の外部評価結果の報告やホームの運営について意見交換が行われ、地域代表から、自治会加入や恒例の夕涼み会の運営についてアドバイスを受けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情相談窓口を明記し、共有空間に公的機関の苦情相談が記載されたポスターを掲示している。ご意見箱を設置し、投稿された意見等は回答を記載し、入居者や家族の見やすい場所に掲示している。家族会の設置はないが、運営推進会議での家族の率直な意見をホームの運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	医師でもある管理者は地域の介護保険事業計画策定委員でもあり、地域福祉に貢献している。近隣の小・中学校と交流したり、毎年7月に夕涼み会を主催し、地域の方々に参加を呼びかけ毎回多くの参加者がある。又、自治会にも加入予定である。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度改正に伴う地域密着型サービスの法令である「家庭的な環境、地域との交流の下」の理解もあり、運営理念を玄関・共有空間の見やすい場所に掲示している。	○	グループホームの所在地・サポート体制・利用料金等を明記した見やすいパンフレットが作成されているが、今回の法令改正を謳ったパンフレット等の作成の検討をお願いしたい。又、運営理念をより見やすくするために大きな活字での記載をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング等で理念を共有し、入居者の率直な意向を入居者の個性と受け止め支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	医師である管理者は地域の介護保険事業計画策定委員でもあり、地域福祉に貢献している。近隣の小・中学校と交流したり、毎年7月に夕涼み会を開催しているが、今回は近隣住民を招待する予定である。又、自治会加入も予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組んでいる。前回の評価を踏まえ、重要事項説明書に国保連合等公的機関の苦情相談窓口を明記したり、家族等の意向に沿った介護計画作成や見直し時に家族の要望等の把握に取り組んでいる。又、運営推進会議規程を整備し、グループホームの啓発に努めたり、事故及びヒヤリ・ハット報告書を整備するとともに、対策委員会を発足し再発防止や予防に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施に関する規程を定め、町担当者・地域住民代表・家族代表等の参加で2ヶ月毎に開催している。前回の外部評価結果を会議で報告し、ホームの運営について意見交換をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	医師である管理者が介護保険事業計画策定委員であることから、町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。年1回介護教室を開催したり、町からの依頼で中学生の職場体験学習を受け入れている。		
7	10 16	○権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を理解しているが、全職員への周知はこれからである。制度パンフレットを整備し家族に送付しているが、内容の説明はしていない。	○	成年後見制度等について、ミーティングや運営推進会議等で内容の周知をお願いするとともに、入居者や家族にパンフレットを送付するだけでなく、制度の説明もお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料明細とともに、各担当職員が日ごろの入居者の心身の状況や暮らしぶりについて記載した書面を送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、共有空間に公的機関の苦情担当窓口が記載されたポスターを掲示している。ご意見箱を設置し、投稿された意見等は回答を記載し、入居者や家族等の見やすい場所に掲示している。家族会の設置はないが、運営推進会議での家族の率直な意見をホームの運営に反映している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動はなく、職員が欠勤の場合は施設長や介護計画作成担当者が代替で勤務することがある。施設長や管理者は認知症の特性を充分理解しているが、運営者の関わりはない。	○	認知症対応型サービス事業者開設者研修受講が義務づけられており、運営者の今後の関わりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用基準はなく、現職員の推薦や面接で就業時間等を了承できる方を採用している。就業規則が整備され年1回の健康診断も実施されている。資格取得に勤務体制を調整するなど、生き生きと働ける環境づくりがある。	○	職員の休憩室が倉庫になり、職員は入居者と同じ共有空間で休息しているため、ストレス解消のためにも休憩室の復活をお願いしたい。
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	ホームの理念が人権尊重そのもので、日々のミーティングで話し合いをしているが人権教育としての位置づけではない。身体拘束に関するマニュアルはあるが、虐待防止マニュアルがない。	○	職員に公的機関等が主催する人権学習参加を促したり、その内容を伝達講習するなど人権教育をお願いしたい。又、虐待防止についてのマニュアル作成や研修が望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のために勤務体制を調整するなど、生き生きと働ける環境づくりがあるが、職員の段階に応じた研修計画や実施がない。	○	認知症介護実践研修未受講の職員もいるので、年間研修計画に沿った研修参加支援をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の活動や入会等についての情報がないので入会をしていないが、ホーム主催の夕涼み会に地域のグループホームを招待し、情報や意見の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の意向を伺いながら、ホーム見学後に入居を決めている。ホームの雰囲気に馴染めない場合は以前通ったことがあるデイケアで過ごしてもらったり、家族の頻回な面会で落ち着いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として尊敬の念を持って接しているので、入居者からのアドバイスが職員の気づきを促すこともある。入居者毎の回想録を作成し、入居者への理解を深めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時折入居者が話す思いや生活歴のエピソードは担当職員が日々の介護記録に記載している。入居者や家族の意向、職歴・生活歴等の基本情報を記載するフェースシートの活用がないが、回想録の作成により職歴や生活歴を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別的な介護計画を作成するために、担当制にしたり毎月のミーティングで話し合いをしているが、全入居者や家族の意向の把握や記載までは至っていない。	○	把握した入居者や家族の意向を記載した介護計画作成が求められる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じて又は3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、見直した介護計画を了承した家族等の署名若しくは記名・捺印がない。	○	家族によっては、面会時に介護計画を説明し了承を得ることが難しい場合もあるが、連絡手段を講じて介護計画を家族に説明し了承を得ていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関への受診支援や特別な外出の支援を介護保険給付以外で行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の医療機関が主治医であるため、定期的な健康診断を支援したり、主治医の専門外の受診は紹介状で適切な医療受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族は管理者である主治医と重度化・ターミナル化した場合について話し合いをしているが、施設長や職員との話し合いや方針の共有はない。	○	主治医である管理者を中心として重度化やターミナルに向けた方針を整備し、情報を共有していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者および家族に個人情報提供について説明し同意を得ているが、個人情報の保護に関する規程の整備がない。職員は穏やかに入居者へ対応している。	○	個人情報の保護に関する規程を整備し、ホーム内の掲示が求められる。ミーティング等で個人情報の保護、プライバシーの確保等について話し合いをした場合は議事録の作成をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当制を導入し、各入居者の生活のペースを把握している。入居者の個のわがままを支援したいとの理念にそって、思い出の場所への訪問を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のしたごしらえ、下げ膳、台拭き等で入居者の力量に応じた関りを支援している。職員は入居者と同じテーブルで食事介助しながら、同じ食事や持参した弁当を食べている。入居者と同じ食事ができるように昼食代の一部を事業所で負担している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する入居者もあり、入居者の要望に応じている。入浴拒否者には、担当職員が交代したり日時を変更して入浴を促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム敷地そばの野菜畑の草取り等の園芸、観葉植物等の水遣り、習字など入居者の役割・楽しみ事を支援している。各入居者の生活歴や職歴を把握した回想録を活用している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を立て、近隣の小学校校庭、入居者自宅の庭、地域の方の庭等で季節毎の花見をしたり、ドライブ等を楽しんでいる。天候や入居者の希望で玄関前のテーブルでお茶を飲んだり、近隣を散歩している。入居者の思い出の地訪問として、キャナルシティ等にも出かけている。又、月2回、隣接する同法人運営のディケアのお誕生会やお楽しみ会も参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず玄関にベルを設置している。外出傾向のある入居者には、職員の見守りで対応しているが、運営推進会議で状況を説明し協力をお願いしている。居室は入居者の希望で内鍵を設置している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回防火訓練を実施しているが、地域への協力依頼はない。非常災害に備え水や卓上コンロのガスボンベを備蓄している。	○	備蓄品の使用期限等を記載した備蓄台帳の整備をお願いしたい。また、地域福祉に貢献しておられる管理者に、行政と連携して地域防災協定書策定を是非お願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のおおよそ1400kcal摂取できるように、各入居者の食事毎の摂取量を把握している。心臓疾患の入居者の水分摂取量は主治医の指示で支援している。又、嚥下・咀嚼状況に応じて食形を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の階段等に季節の花の鉢や金魚鉢が置かれ季節感にあふれている。陽射しよけにもなる瓢箪がプランターに植えられ、入居者の楽しみにもなっている。訪問調査日が梅雨であったために天井の梁に洗濯物が干され、生活感があふれていた。共用空間におかれたソファや椅子は入居者のお気に入りの場所になっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のベットはホームで設置しているが、箆箆・仏壇等の馴染みの家具や日用品が持ち込まれ本人が過ごし易い居室づくりをしている。		